

地域おこし協力隊通信

No.11

今月号は、協力隊員の一年間の振り返りや、これからの活動へ向けた熱い意気込みをお届けします！



私が昨年4月に初めて江府町へ来て、最初に受けた印象は「何もない町」でした。

しかし、1年間協力隊の活動を通じて町の人と接し、江府町で過ごしてみて、その印象が「何でも出来る町」に変わりました。

江府町は確かに人も店も少ないですし、町民の方にも「よくこんな何もない町に来たねえ～」と言われることもあります。

でも江府町は何もないからこそ、何にでも挑戦出来るし、作り出していける町なんじゃないかと私は思います。そんな何でも挑戦出来る江府町だからこそ、これからは協力隊の活動だけでなくNPO法人奥大山倶楽部での活動や集落活動等、色々なことに挑戦・参加していきたいと思っています。

(雨宮達樹)



江府町に来てあっという間に一年が過ぎてしまいました。江府町に来る前は、具体的なイメージはほぼ無く「何か面白いことをする！」という勢いしかありませんでした。そんな中、一年間江府町で暮らし、仕事をし、様々なことを自分なりに感じ、課題を見つけ、どうすれば江府町がもっと元気になるかを考えてきました。そして、「NPO法人奥大山倶楽部」を設立するという一つの答えに至りました。当法人を通して、江府町を元気にしていけるようガンバっていきますので、今後とも宜しくお願いいたします！

(古海修祐)



江府町へ来て約一年が経ちました。

最初は協力隊という立場で具体的にどういうことができるのか、新しい地で新しい仲間とゼロからのスタートに不安もたくさんありました。協力隊のメンバーと四苦八苦しながらまた、役場の方々や町民の方に支えられ、昨年は様々な活動を行うことができました。「とにかくやってみる！」頭ではいくらでも考えられます。最初の一步を踏むこと挑戦することの大切さや面白さを実感しました。

2年目からはNPO法人奥大山倶楽部での活動も加わり、さらに幅広く活動していきたいと考えています！よろしくお願いします！

(清水祐花)



私の一年は、今まで私がいた環境が180度一気に変化した年でした。何もかもゼロからのスタート。社会人としても町民としても学ぶことが多かったです。最初は「しんどい、もう嫌やわ。」と思っていましたが、この頃は調子が掴めたからか、何をするにしてもとても楽しい毎日を過ごしています。

2年目は学んだことを活かし、私をもっともっと知ってもらうために、誰よりも活発に行動して町おこしをしていきたいです！そして、町のことでなく、大好きな彫刻の制作活動にも本格的に取り組もうと思います！

江府町のみなさん、これからもよろしくお願いします！

(上谷美波)



自分は農業の視点から町を観察し地域おこしを考え1年を過ごしました。状況がわかってくると、農業、今のままでは「やれんなあ」と言うのが正直な感想です。同じように感じている方もいますか？

「持続可能性」という言葉があります。「今まで続けてきた活動や社会・事柄などが、将来にわたって持続できるかどうか」を表す概念です。江府町そのもの、農業、僕が江府町に居続けられるかどうか。色々な持続可能性を考えます。

江府町の農業、今のままで5年、10年後も大丈夫でしょうか？みなさんはどう思いますか？次の1年は変化のための具体的手法について考えていきたいと思っています。あなたに話を聞きに行くかも知れません。

(ながたひろく)



江府町の方々にはいつもお世話になっています。ありがとうございます！

今回は今年度最後の町報ということで、「江府町への思い」と「雪国の辛さ」について書かせて頂きます。

江府町への思いについては、昨年4月に町外から江府町へ来た私を受け入れて下さった江府町の方々へ恩返しをしたいと思っております。

その為昨年1年間畑で学んだことや新たな農法を江府町にある畑で活かし、農業を活性化して行きたいと思っています。

雪国の辛さについては、雪道の運転でスリップしたり、雪で足がしもやけになったり等、大変なこともありました。2年、3年と江府町に住むことで慣れていきたいと思っています。

(片岡薫哉)